

学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名	山 口 県
-------	-------

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	周 南 市 立 秋 月 中 学 校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	17
生徒数	47	61	69	3	180	

II 研究の概要

1. 研究主題

～ 学びを育み、学びを高め、学びを喜ぶ生徒の育成  
～ 一人一人の確かな学力を支援する学習活動をめざして ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

○ 全学年：数学・英語  
 数学、英語ともに生徒の理解の状況に差が出やすく、通塾生徒の比率も高く、生徒・保護者の数学・英語に対する習熟の期待も高いため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

○ テーマ  
 ー「学びたい思い」を芽生えさせるアプローチー  
 生徒の学びたい思いを育むための習熟度別少人数集団の編成方法と、効果的な指導方法の在り方について研究する。

○ 研究の見通し  
 ① 習熟度別少人数集団をどのように編成し、また必要に応じてどのような工夫改善を行っていけばよいかを研究することによって、生徒の学びたい思いを引き出し、生徒の確かな学力を育むための効果的な授業環境を構築することができるであろう。  
 ② 習熟度別少人数集団において、生徒の学びたい思いを引き出す授業設定や教材開発の研究を進めることによって、生徒の確かな学力をさらに高める授業を実現させることができるであろう。

○ 研究の内容・方法  
 学力向上フロンティア事業の趣旨にある「確かな学力」について、文部科学省は『知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力』（初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について(答申)：平成15年10月7日)と解説している。本校では、年度始めより、この生徒の主体的な「学びたい思い」を重視することで「確かな学力」を育てる手立てについて研究を進めた。そして、その「学びたい思い」を芽生えさせるために図1のことに実践していくこととした。

(1) 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るために、学級を少人数に分けて授業を展開する。  
 (2) 理解や習熟の程度に応じた指導の実施を図るために、習熟度別の学習グループによる授業を展開する

↓

全学年の英語科・数学科で実施

図1 学びたい思いを芽生えさせる手立て

また、上記(1)(2)を実践していく上で、図2の2つの側面からアプローチすることで、生徒の「学びたい思い」を高めることにした。

<ハード面からのアプローチ>

学びたい思いを引き出す集団づくり

↓

指導方法・指導体制の工夫

<ソフト面からのアプローチ>

学びたい思いを引き出す授業づくり

↓

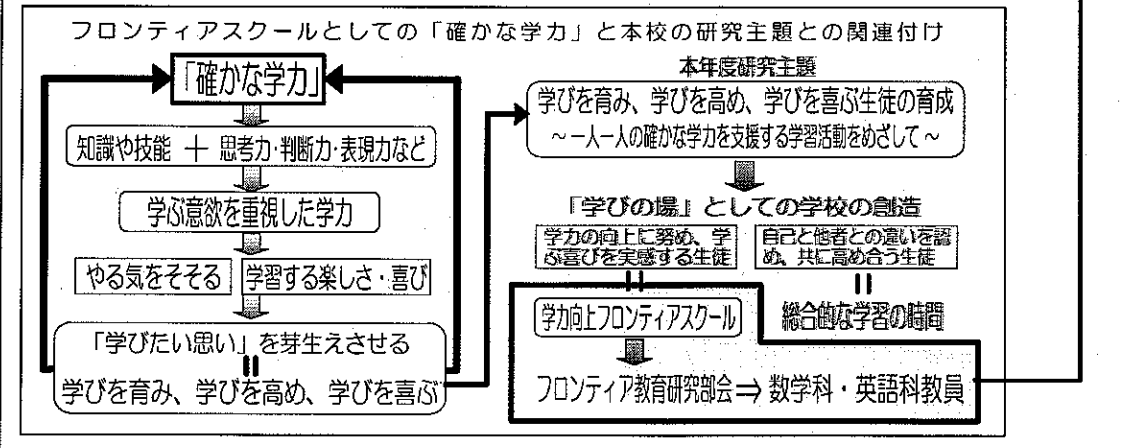
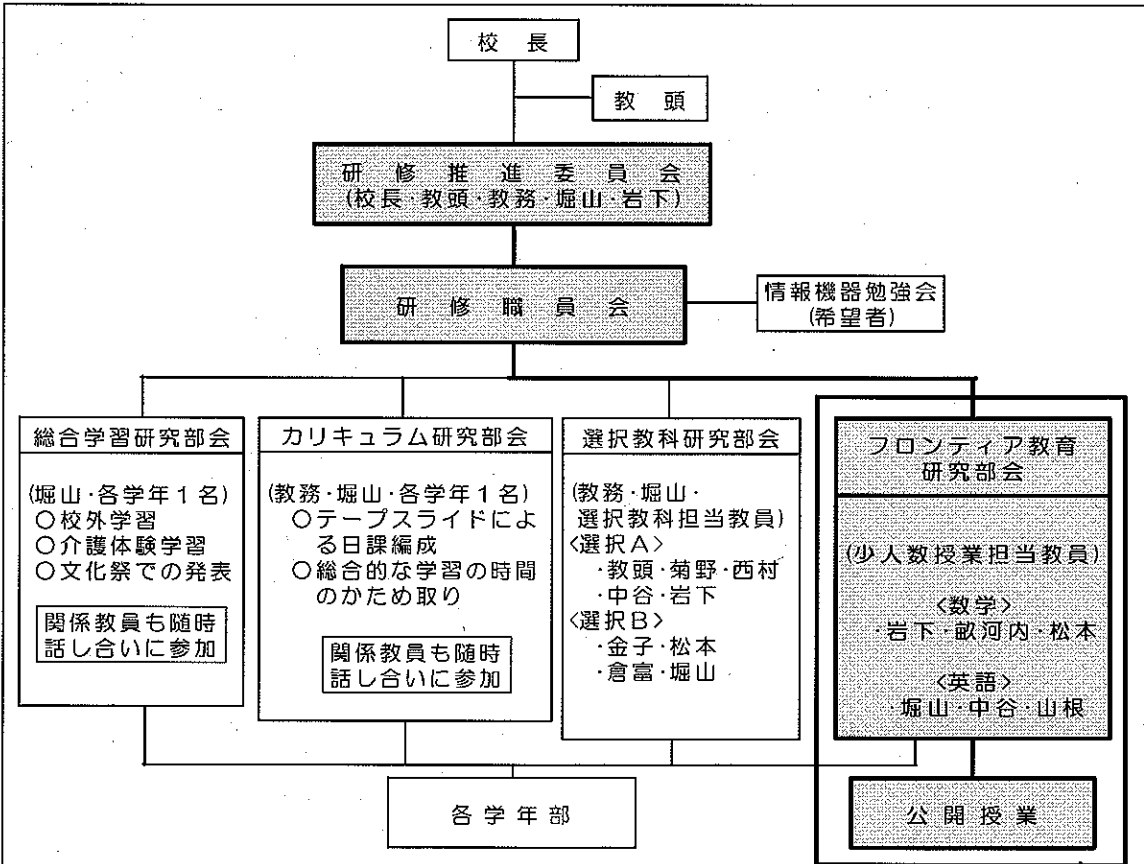
授業の仕組み方・教材開発

図2 学びたい思いを引き出すアプローチ

平成16年度

- テーマ  
 —「学びたい思い」を「確かな学力」へと繋いでいくアプローチ—  
 生徒の学びたい思いを確かな学力へと発展させていくために、習熟度別少人数集団の中で、どのような指導方法や教材提供を行っていけばよいかについて研究する。
- 研究の見通し  
 それぞれの習熟度別少人数集団に合った指導方法や教材提供の方法について研究することで、生徒一人一人へのきめ細かな学習支援が可能となり、生徒の学びたい思いを確かな学力へと広げていくことができるであろう。
- 研究の内容・方法  
 平成15年度に研究した習熟度別少人数集団の「集団づくり」と「授業づくり」の実践内容をもとに、生徒の学びたい思いを引き出すための指導方法・指導体制の充実を図り、授業の仕組み方や教材開発についても研究を深化させていく。特に基礎コース・標準コースの各少人数集団内の、生徒一人一人に配慮したきめ細かな指導の在り方について、それぞれのコースの特色を生かした授業内容や教材などの工夫改善も行っていきながら、「学びたい思い」を「確かな学力」へと繋いでいくための研究を行う。

(3) 研究推進体制



### Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

#### (1) <ハード面からのアプローチ>—「学びたい思い」を引き出す集団づくり—

##### 【習熟度別の少人数集団の編成方法】

本校では、習熟度別の少人数集団をつくる際、生徒の学ぶ意欲を大切にするために、生徒自身による自由選択を採用することにした。しかし、第1期目のコース選択では、基礎コースと発展コースとの人数比にかなりの差が出た。3年のクラスでは生徒数35人のうち26人が基礎コースで9人が発展コースという格差が生じた。これは、本校1年生の1学級24人少ないという数字であり、少人数というには無理があるのではないかという意見もあった。そこで、2期目を以降のコース希望調査では、発展コースを標準コースと改名し、各コースの見通しを詳しく説明した。コースを詳しく説明した。コースを選択の際に、希望コースがはっきりしない生徒には、「どちらでもよい」という選択肢を設けて、教師側との十分な話し合いのもとでの選択を行わせた。また、一度はコースを選択したものの、どうしても自分に合わないような場合には、各コースの進捗とも照らし合わせながら、必要に応じて途中でのコース変更も認めた。このことにより、生徒はより自分に合ったコースを選択することが可能となり、1月からの最後のコース選択では基礎と標準の各コースの人数的な隔たりがほぼ解消された。(図3)

表1では、希望コース名を「基礎クラス」「発展クラス」とし二者択一の選択をさせているが、表2では、希望コース名を「基礎クラス」「標準クラス」と改名し、その学習内容の説明にも配慮した。また、二者択一という選択ではなく、「どちらでもよい」という選択肢も設けて、自己選択の困難な生徒に対しては、教師側のアドバイスを加えることができるように工夫した。

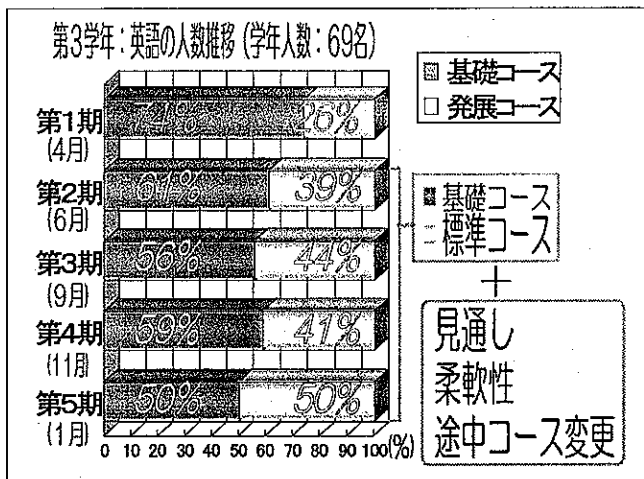


図3 3年生英語科の人数推移

少人数クラス希望 記入用紙

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

保護者氏名 \_\_\_\_\_ 印

今年度から、英語と数学で少人数クラスの授業を実施します。これは学級を2クラスに分けて、少人数の中でより充実した学習を行っていくものです。学習内容として、基礎基本の内容に重点をおいた「基礎クラス」と、応用発展の内容まで学習を進めていく「発展クラス」とがあります。各クラスとも学習の内容と進度は同じです。クラス編成は、定期テストの後や各学期初めの節目に年間5回程度実施する予定です。みなさんはそのつど自分の希望に応じて、「基礎クラス」「発展クラス」のどちらかを選択できます。

つきましては、1回目の少人数クラスの希望を確認しますので、自分の興味関心やテストの結果などを参考にして、次の中から自分が受けてみたいクラスを選んでください。

英 語	・ [基礎クラス]	・ [発展クラス]
数 学	・ [基礎クラス]	・ [発展クラス]

表1 第1回少人数クラス希望調査

少人数クラス希望 記入用紙

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

中間テストが終了しましたので、2回目の英語と数学の少人数クラスのコース希望とります。今回は、これまでの基礎コース/発展コースを基礎コース/標準コースというコース選択して頂きます。[基礎コース]ではこれまでどおり基礎基本を大切に学習をさらに充実させていきます。[標準コース]ではより標準的な内容に重点をおいた授業を行います。授業の進捗は考えながら必要に応じて楽みのある学習も実施して頂きます。また、コース選択の際は、基礎コース/標準コースの選択の他に、「どちらでもよい」という項目も作りましたので、自分でどちらのコースでもよいと思う人、あるいはどちらか決めかねている人にも「どちらでもよい」を選んでおいて、必要に応じて各クラスの先生と相談しながら自分に合ったコースを始めることができます。これまでの自分の学習や中間テストの結果などを参考にして自分の希望するコースを選択してください。

英 語	・ [基礎コース]	・ [標準コース]	・ [どちらでもよい]
数 学	・ [基礎コース]	・ [標準コース]	・ [どちらでもよい]

表2 第2回少人数クラス希望調査

このように、習熟度別の少人数集団をつくる際には、教師の意図と生徒の受け止めとの間にずれが生じたが、それを解消する手段として、図4のような工夫改善を行った。

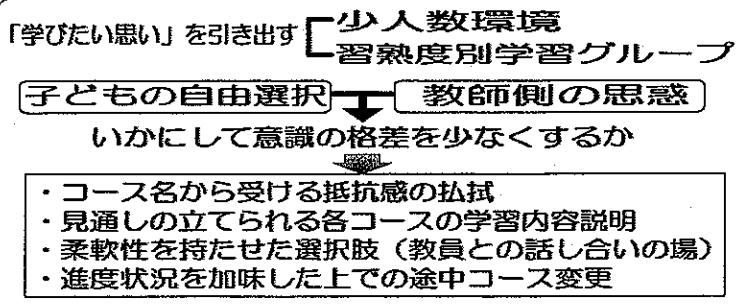


図4 学びたい思いを引き出す集団作り

(2) <ソフト面からのアプローチ>—「学びたい思い」を引き出す授業づくり—  
【授業づくりにおける基本的な考え方】

生徒の「確かな学力」を育むためには、学習集団づくりに加えて、生徒の学びたい思いを引き出すための授業づくりについても研究を行う必要があることは言うまでもない。本校の少人数学習は、基礎と標準のそれぞれのコースを生徒の自由意志で選択することになっている。そのことから考えると、基礎・標準の各コースともにそれぞれ特色のある授業を生徒が望むのも当然のことである。しかも、その授業内容は「確かな学力」を育むための「学びたい思い」を高めるものでなくてはならない。このことは、基礎コースの中の特に学力が十分ではない生徒に対しても、あるいは標準コースの中の特に学力の高い生徒に対しても同様に当てはまるべきことである。

本校では少人数学級を習熟度別に編成し、少しでも学力差の少ない集団のもとで授業を展開しようと考えている。しかし、現実問題として、個々の学力差を伴う学習集団に対して生徒一人一人のニーズに応じた授業提供をするのは容易なことではなく、こうした学力差を克服する授業を構築していくことが、生徒の「学びたい思い」に応えることになるのではないかと考える。そこで、本校では「学びたい思い」を引き出す授業設定および教材開発について、図5のことを念頭において取り組むこととした。

学びたい思いを引き出す「授業設定  
教材開発」

① 成就感・達成感の味わえる授業を設定する

基礎コース → 学習内容を精選することで、生徒の興味関心を高められる工夫をする

標準コース → 学習内容に広がりを持たせることで、生徒の興味関心を高められる工夫をする

② 知的好奇心をそそる教材開発を行う

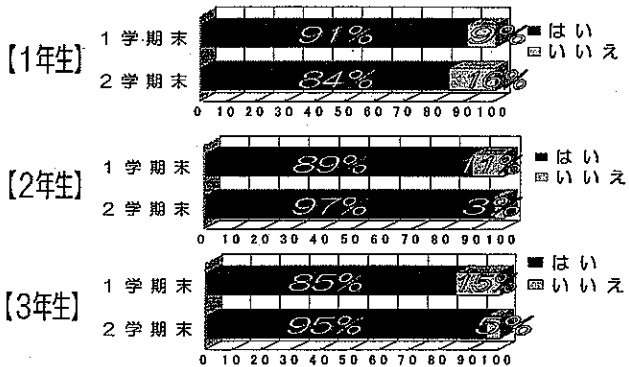
基礎コース → それぞれのコースのそれぞれの個に応じた教材の提供を工夫する  
標準コース → 生徒の興味・関心をひきつけるビジュアル教材などの工夫開発をする

図5 学びたい思いを引き出す授業作り

(3) アンケートから考察する  
成果

図6の少人数授業アンケート結果からも分かるとおり、習熟度別の少人数授業は、ほぼ全学年の生徒から良い効果があると受け止められている。また少人数のコース編成方法についても、生徒の自由意志による習熟度別を望む生徒が大多数を占めており、今年度実践してきた習熟度別の少人数集団による授業は、概ね生徒に受け入れられていると言える。特に、少人数のコース分けについては、上学年ほど生徒の自由意志による習熟度別コースの希望者が多い。このことは、生徒が自己と向き合い、自分自身の学力や興味・関心に応じた、より主体的な学習選択を望んでいる傾向が強いことを意味している。そして、そうした学習形態が生徒の学びたいという思いを高めることに繋がっていると考えられる。

① 少人数授業はあなたに良い効果がありますか？



② 少人数のコース分けはどのような形がいいですか？

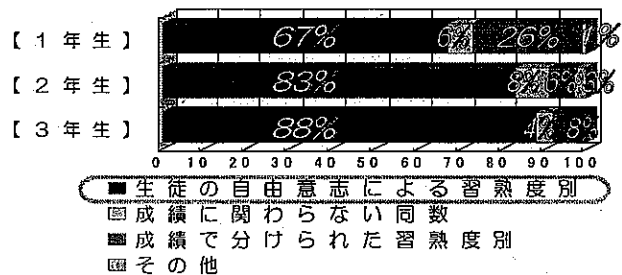


図6 少人数授業についてのアンケート

## 2. 今後の課題

図7は、2年生で、2学期に英語の基礎コースを選択した生徒を対象に実施したアンケート結果である。このアンケート結果の中には、今後の課題として受け止めて改善を図っていくべき点がある。このアンケート結果によると、少人数の中でさえ、個々の生徒の理解度や学習習慣によって、授業の進度に対する受け止め方に差が見られることが分る。それ一つ一つの授業を早く感じる生徒もあれば遅い生徒もいる。授業の理解に必要な時間や格差を克服する授業を、仕組んでいくためには、今後個人に合わせた教材提供や指導方法を考へていくことが大切である。この点に注目して、少人数集団改善を行っていきたい。また、アンケート結果の中には、学びたいと思わせる授業を仕組む上で有効な教材の在り方に触れている生徒の意見も見受けられる。生徒の中には、コンピュータを教材として活用した、ビジュアル教材には、その活用方法の工夫次第で生徒の知的好奇心を高めることができ、そこから生徒の学びたい思いを引き出せるなど、多くのメリットがあると考えられる。研究は、これまでの実践を踏襲しつつ、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実と、理解や習熟の程度に応じた指導の実施を図っていきながら、少人数による習熟度別学習の有効な実践方法について研究を深めたい。そして、生徒の「学びたい思い」を大切にしながら、「確かな学力」に繋がる教育活動についての検証を行い、フロンティアスクールとしての役割を担っていきたいと考えている。

### よかったと思う授業は？

- ・プロジェクトを利用した進出単語の確認は覚えやすい。
- ・英語以外のいろんな話をしてくれて楽しい。
- ・must, have to のところでコンピュータを使った授業は分かりやすい。
- ・とても詳しくいろいろ説明してくれるので英語がおもしろくなった。
- ・教科書にのっていないことまで教えてくれるのでおもしろい。
- ・コンピュータを使った授業は、ノートをとりやすくて分かりやすい。
- ・手を挙げて発表しやすい。雰囲気がいい。

### いやだなと思う授業は？

- ・すごく早く授業を進めたとき。ついていけない。
- ・授業の進み方が遅いとき。退屈する。

図7 「授業について」概括的に把握するためのアンケート

## IV 学力把握のための学校としての取組

- (1) 1・2年生については、年間5回実施する定期テスト及び年間2回実施する習熟度テストの結果を、また3年生については、年間4回実施する定期テスト、及び年間6回実施する習熟度テストの結果を、数学・英語の各教科において比較し、全体の学力の推移を検証している。
- (2) 年間5回実施する習熟度別少人数集団のコース編成のうち、2回目～5回目の各コースの終了時にアンケートを実施する。そのことから、生徒の習熟度別少人数授業に対する率直な思いを把握し、そのデータと定期テストの学力結果とを比較し検討を行っている。

## V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 管内小中学校への研究成果の普及
  - ・1月23日(金)：公開授業及び本校の研究実践内容の紹介  
(平成15年度周南管内学力向上フロンティア事業地区協議会を兼ねる)
- (2) 県内の小中学校への研究成果の普及
  - ・3月上旬：本校の1年次中間報告研究冊子の配布

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T. Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無